



参加者へ指導する講師の桐越さん

合言葉は「へたでいい、へたがいい」

絵手紙サークルでは、今年度もJA女性部を中心にくらしの活動の一環で、毎月第2水曜日に絵手紙教室を開催しております。合言葉は「へたでいい、へたがいい」と、絵手紙を通して、生きがいを見つけたり、仲間づくりに取り組んでおります。

4月に開催された絵手紙サークルでは16名が参加し、講師の桐越民子さんの指導の下、思い思いに筆を走らせ作品作りを楽しんでおりました。

出来上がった作品はJAあきた白神二ツ井支店に展示しておりますので、支店へお越しの際はぜひご覧ください。

あなたもはじめてみませんか

興味のある方ならどなたでも参加できます。
必要な道具は全てこちらで準備します。

～毎月第2水曜日～

みんなで楽しく絵手紙作成中!!

参加希望の方はお気軽にお越しください。

場 所 生活総合センター2階
(JAあきた白神 仕出しセンター2階)
問い合わせ先 生活課 TEL74-8348



二ツ井支店へ展示している絵手紙作品

食農教育に役立てて 教材本を寄贈



金野尚人藤里町教育長へ寄贈する組合長



高橋誠也能代市教育長へ寄贈する組合長

4月12日に子どもたちに農業に関心を深めてもらおうと、JAバンクの補助教材「農業とわたしたちのくらし」を能代市教育委員会と藤里町教育委員会に300冊を寄贈しました。能代市と藤里町では小学5年生を対象に食農教育をテーマに学習を行っており、教材本として利用されています。

教材本は生活を維持するために必要な「食」とこれを生み出す「農業とくらし」「農産物の生産」等について、写真やイラストを使ってわかりやすく説明されています。

佐藤組合長は「子どもたちが地域農業への理解を深めてもらえるよう、ご活用いただきたい」と話し、高橋誠也能代市教育長と金野尚人藤里町教育長に教材本を手渡しました。教材本を手にした能代市・藤里町の両教育長は「教材本を通して、子どもたちに地域農業の魅力を総合的に伝えたい」と感謝しておりました。

JAあきた白神は今後も食農教育の一貫として、畑作体験や収穫授業体験など、将来を担う子どもたちに農業に触れさせる機会作りを取組んで参ります。



令和5年度の事業計画など
全議案可決承認



あきた白神トピックス

顔の見える魅力ある直売所めざす

農産物直売所「みよが館」を運営している「はまなす産直会」は4月11日、第26回総会を本店で開催し、令和4年度の実績を振り返り、令和5年度の活動計画を決定しました。

総会には会員とJA役職員合わせて約40名が出席。令和4年度は直売フェスタや収穫感謝祭など各イベントの催しにより、年間の販売額は約1億2千万円と計画を上回る販売額となりました。令和5年度は、さらにイベント・出張販売で消費者と情報交換をしながら、常に安全・安心を心がけ顔の見える魅力ある販売を行い、販売額1億2千万円の目標を掲げ、消費者に必要とされ愛される直売所をめざします。

梶原啓子会長は「農産物の管理の難しさや、資材や光熱費の高騰、食品衛生法の規格基準対応など課題が山積されているが、もう一度初心に帰り安全・安心に取り組み、安価という直売所の強みを前面に出し、消費者に喜ばれる直売所をめざしたい」と決意を新たにしております。

生産基盤強化誓う 部会長に藤田清樹さん

山うど部会総会と販売実績検討会が4月13日開かれ、令和5年度の事業計画報告や役員改選を行いました。総会では令和5年度の重点活動として、新規栽培者の掘り起しや基本技術の徹底、Udooーグランプリなどの販売キャンペーン等に力を入れることを確認しました。

役員改選では新部会長に藤田清樹さんを選任。藤田部会長は「管内には山うどの若い担い手・法人も沢山いる。部会員で力を合わせ適正管理と販売強化にも力を入れて行きたい」と生産基盤強化を誓っていました。



適正管理と品質向上で生産基盤の強化確認

水稻健苗へ巡回指導



苗の管理について個別指導

水稻育苗の初期成育の確認や農家からの相談に因應するため、4月24日から管内3地区で苗代巡回を行いました。

JAの営農指導員が各生産者の育苗ハウスを巡回して、床土や苗の状態、温度管理等について細かく確認、指導しました。巡回した指導員は「苗は順調に生育しているが、気温が低い日もあるので、ハウス内の温度には気をつけてほしい」と指導。気温の上昇とともに苗焼けや徒長苗、病害などを防ぐために温度管理に注意を促し、健苗育成に向けて指導しておりました。